

令和5年3月17日 公共事業評価に係る城陽市都市計画審議会を開催しました。

城陽市まちづくり活性部
新名神推進課

開催概要

日時

令和5年3月17日（金） 10時00分から11時20分まで

場所

城陽市役所西庁舎4階 401・402会議室

出席者

- ・城陽市都市計画審議会
中川会長、語堂委員、平松委員、倉田委員、谷委員、井上委員、生駒委員、北澤委員、信吉委員、水野委員、安田委員、山口委員
- ・城陽市
今西副市長、森島理事、村田理事
（まちづくり活性部） 大石部長、木村新都市政策監、岩佐次長
（新名神推進課） 中野課長ほか
（都市政策課） 立木次長ほか

議事内容

○対象事業

都市計画道路東部丘陵線（地域連携道路事業）

- ・評価種別 再評価
- ・事業種別 街路
- ・事業主体 城陽市
- ・施工箇所 富野中ノ芝～奈島池ノ首

○結果

- ・再評価に係る城陽市の対応方針案（継続）について、各委員から異議はなかった。

○審議会での主な意見

- （委員）アウトレットの整備等に伴い、市内交通量が増加し渋滞発生が予想されるため、城陽井手木津川バイパスの早期完成をお願いしたい。
- （城陽市）城陽井手木津川バイパスは既に国が事業に着手されているが、完成時期は示されていない。市としては早期の全線供用を、さらには国道307号から東部丘陵線区間までを優先的に供用するよう国に要望している。
- （委員）便益については、城陽井手木津川バイパスの整備を前提に評価しているのか。

(城陽市) 城陽井手木津川バイパスが整備され、交通量が増加すること、増加する交通量が東部丘陵線に流入することを前提に評価している。

(委 員) 事業費増加の要因である工事土量の増加は誰が算定し、正当性を認めたのか。また、増加した事業費のうち城陽市の負担はどのくらいか。

(城陽市) 工事土量の算定については城陽市で行っている。これまで概算での数量により事業を進めてきたが、詳細な測量によって正確な工事土量が判明したことによるものである。

増額した事業費のうち、約半分が国庫補助金、残り半分が基金及び起債を充てることとしているが、東部丘陵線の完成によって中間エリアを含めた東部丘陵地のまちづくりが進み、税収の増加や雇用の確保など経済効果を生むことが見込まれる。

(委 員) 東部丘陵線の工事により発生する建設発生土を原石として販売することにより、コストを削減できないのか。

(城陽市) 近畿砂利協同組合に原石として処分する方策により残土処分費用を抑える等、コスト削減に努めている。

(委 員) 今後、東部丘陵地のまちづくりが進み、山が無くなるのであれば保安林は必要無くなるのでは。

(城陽市) 東部丘陵地内の保安林は、基本的に土砂流出防止のためのものである。保安林解除の際には緑地の確保や調整池の設置といった代替機能が必要となるため、今後、中間エリアのまちづくりに保安林解除が必要となる場合は適切に対応していく。

(委 員) 当初事業費の約40億が97億まで増加したとのことだが、詳細設計等が完了したのであればこれ以上事業費の増加はないと考えて良いか。

(城陽市) 今後、労務単価や物価上昇等の社会的要因や、工事の中で予測できない事態に対応する必要も出てくるが、現時点では約97億円と試算している。

(委 員) 自転車専用道路や歩道を含めた道路幅員の見直しにより、コストを削減できないか。

(城陽市) 今後、まちづくりを進めていく中間エリア沿いの道路南側に歩道を集約するとともに、自転車と歩行者の通行区分を分離した形状で整備を行うこととなった。コスト削減については、植樹帯や道路構造物等を対象として今後方策を検討していきたい。

(委 員) 東部丘陵線及び新名神高速道路の調整池は何箇所計画されているか。

(城陽市) 東部丘陵線について、今池川流域に1箇所、長谷川流域に2箇所、青谷川流域に1箇所、の計4箇所である。

新名神高速道路について、今池川流域に3箇所、長谷川流域に2箇所、青谷川流域に2箇所、の計7箇所である。

(委 員) 新名神高速道路北側に「広域防災拠点等ゾーン」と位置づけられている箇所があるが、住民が密集した市街地に設置すべきでは。

(城陽市) 平成28年5月に策定した東部丘陵地整備計画【見直し版】の作成段階において、当該地が陸上自衛隊長池演習場に隣接することから、自衛隊との連携を期待してゾーニングしたものである。

(委員)「走行時間短縮便益」は、現状に対する効果か新名神高速道路の開通等により交通量が増加した将来時点に対する効果かどちらか。

(城陽市)平成27年に国が実施した交通センサスに基づき、将来の推計交通量に対し東部丘陵線の完成によってどれだけ走行時間の短縮等の効果を算定するものであり、東部丘陵線がある場合と無い場合の差を便益として算定している。